

広報うき「ウキカラ」アンケート結果

令和2年11月号 No.214

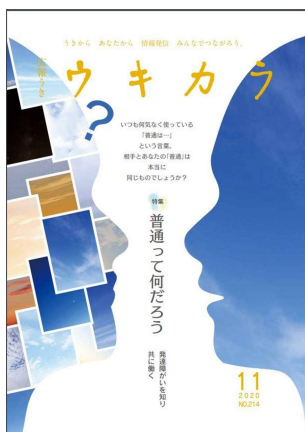
11月号の内容と12月号

特集は「普通って何だろう 発達障害を知り 共に働く」。近年増えている発達障がい。当事者や周囲で支える人たちに話を聞き、発達障害と就労について取りあげました。宇輝人は農家★ハンター井上拓哉さん「命に向き合う移住の日々」。

12月号の特集テーマは不知火美術館特別展とリンクした「地域とデザイン」。

集計期間 11月1日～20日 回答総数 人

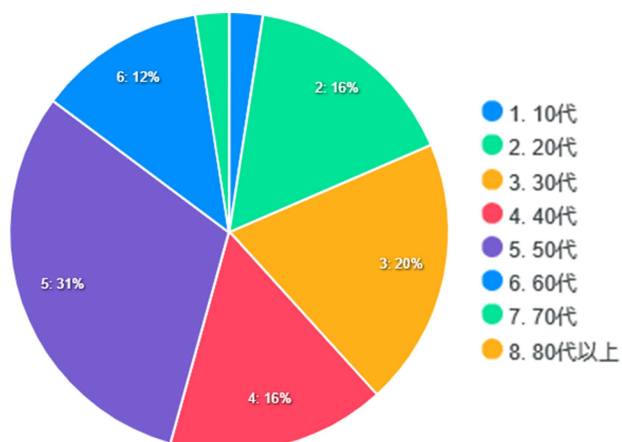
表紙



いつも何気なく使っている「普通は…」という言葉。相手とあなたの「普通」は、本当に同じものなのでしょうか

タイトルには、お互いの違いを意識し、少しの配慮をすることで誰もが暮らしやすい世の中に、と願いを込めました。

年代

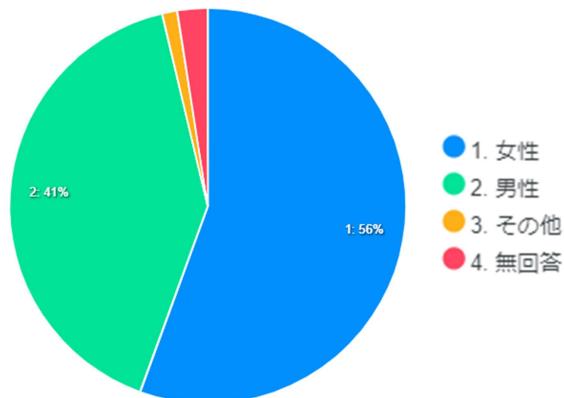


アンケート結果から

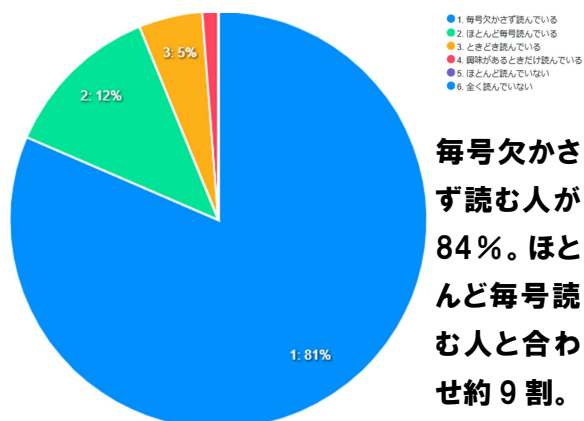
特集のテーマ「発達障がいと就労」。幅広く、奥が深い内容に、編集部一同どう取り組んでよいのか悩みました。今回、普段にもましてたくさんのご意見をいただきありがとうございます。いずれ、発達障がいの別の部分についても特集の必要があると感じています。

また、市内のグルメやおしゃれさん特集を読みたいとのリクエストもいただきました。来年度、企画やページを見直す中で皆さんのご意見もお聞きしたいと思います。12月号のアンケートでぜひ読みたい企画を教えてください。

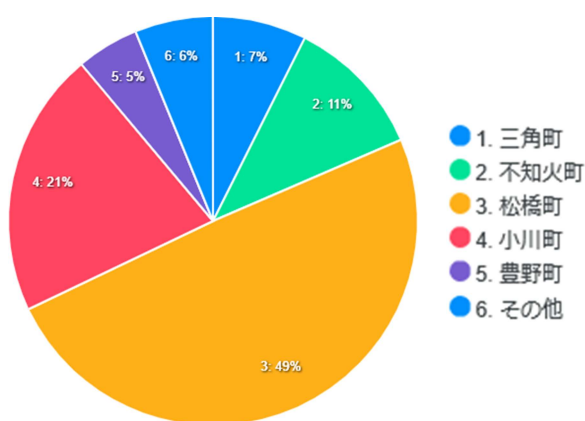
性別



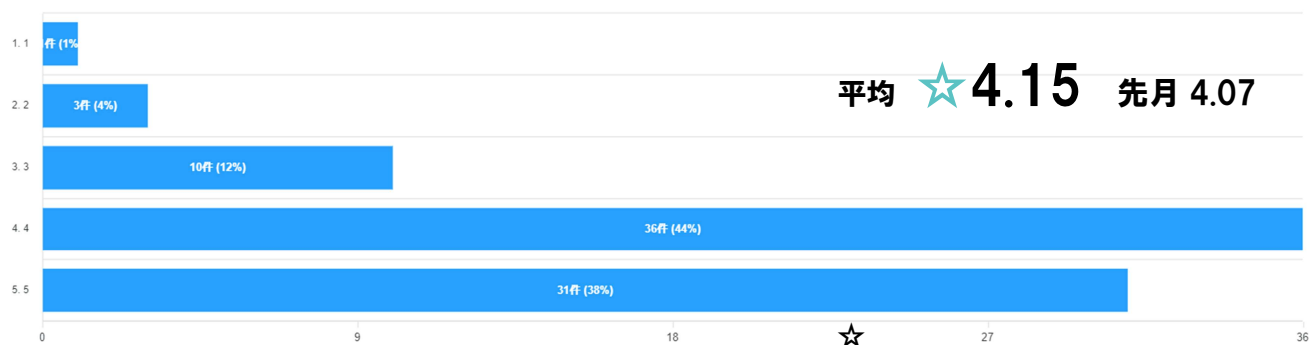
ウキカラを読む頻度



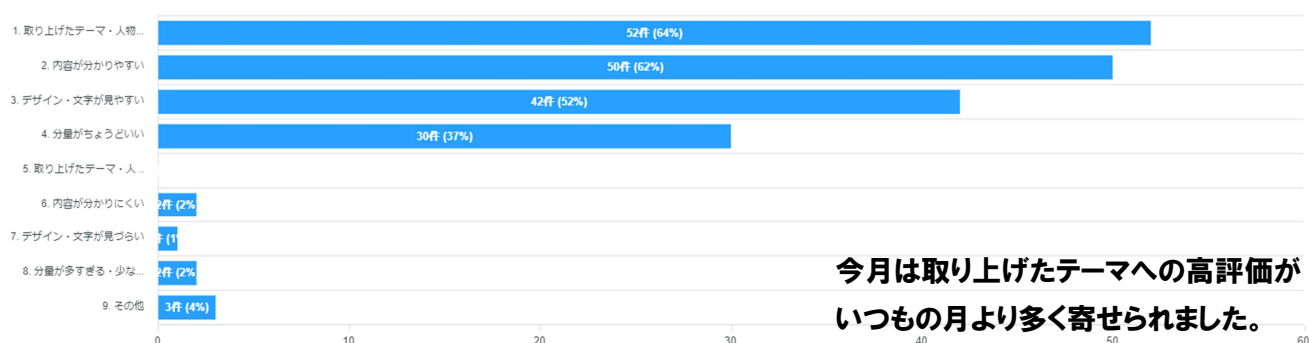
住所



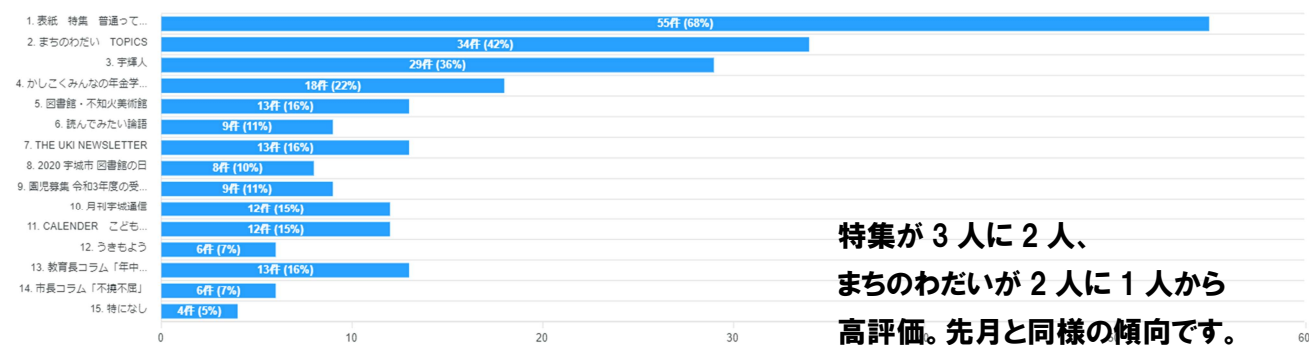
今月号の全体的な内容はいかがでしたか



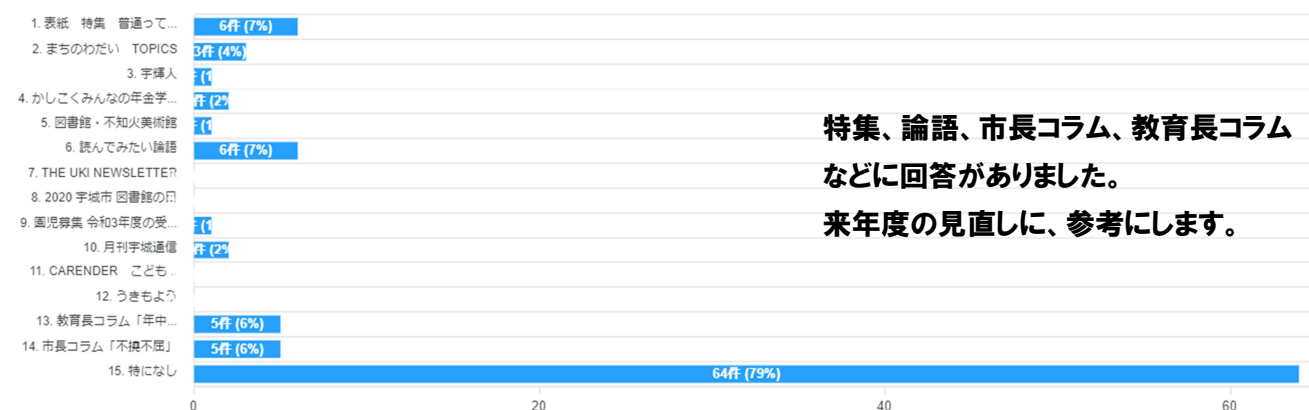
上のように感じられた理由は何ですか（複数回答）



面白かった・ためになった記事はどれですか（複数回答）



面白くなかった・ためにならなかった記事はどれですか（複数回答）



今月号の感想や「ウキカラ」に対するご意見を教えて下さい

- ・「普通って何だろう」血の繋がった家族同士でも「普通は…」と言われて傷つくことがあります。今月も丁寧に簡潔に誰にでも読みやすく作られていて、有り難く拝読しました。ありがとうございました。
- ・コラム欄ですが、伝えたいメッセージは種々あると思いますが、交代に掲載するとかでは、だめですか？
- ・今月は表紙から「普通って何だろう」という言葉があり、すぐページをめくりました。広報で、このようなテーマを大きくとりあげてくださる事で、発達障がい個性として捉えてくれる人々が、社会全体が増えて行く事を願います。
- ・人は違って当たり前、ロボットではないのです。相互理解を進めて、より良い未来へと繋がりますように。”特集の『普通ってなんだろう』は、画期的で素晴らしい記事だと感じました。発達障がいに限らず、あらゆる障がい、病気、生き辛さを抱え、社会から取り残されがちな人々の事を、先ず知る事が、共生への第一歩だと思います。
- ・発達障がいのことを市の広報誌で特集されたことに驚きました。書店にはたくさん本がありますが、興味を持って手にする人は限られています。市内の全員が手に取ることが可能な広報誌に分かりやすく特集されているのに敬意を表します。そして何よりご本人やお父様が名前と写真を載せて投げかけてくださって、広く市民の心に届くと思います。ともに生きる宇城市への一歩になると思います。
- ・とても良かったです。
- ・特集普通って何だろうは良かったですね。勉強になりました。心に留めて自分の身近でふれあう人々に寄り添うことができたかと思いました。やはり知ることは大切なことだと実感しました。
- ・たまには宇城市のグルメを紹介してほしい
- ・発達障害やマイノリティへの理解を深める為に、とても良いテーマだったと思う。知る事で、多様性を認め合う優しい社会になって欲しい。
- ・市の広報でこの様なテーマを大特集するのは大賛成です。もっと広く深く、第二弾をやって欲しい。
- ・色んな事を認め合える社会は、誰にとっても優しい社会になると思います。
- ・年を重ねたせいか、地域に伝わる「昔話」のファンです。「へえ？」と、いつも楽しみにしています??イラストも学芸員さんが書かれていて、ほんのり暖かい気持ちになります。学芸員さんって、絵も上手でないとなれないんですか？
- ・宇城市のおしゃれさん特集とか どうでしょうか？そしたら 子ども達や若い人達にも読んでもらえそうな気がします。
- ・特集が今までにないテーマだったと思います。宇城市は特別支援教育や福祉施設が他に比べて多く、素晴らしいと感じていました。市民みんなが理解しあえる暮らしやすい宇城市にしていきたいために、欠かせない特集だと感動しました。シリーズ化してほしいです。
- ・今回発達障害でしたが、とても分かりやすいと思いました。甥が発達障害と診断されましたが、祖父の理解を得られないのが現状です。それに加えて、発達障害は治るはずと思い込んでる祖父なので、どんなに発達障害の話をしてしても受け入れてくれません。そんな時にウキカラで特集を組んでくださったので、ありがたかったです。
- ・身近にも発達障がいの方がいるので、私自身ちゃんとした知識を身につけて理解を深め、自分にできる対応をしたいと思いました。

- ・息子が、発達障害で2歳の時から療育を受けています。「普通」てなんだろうと毎日自問自答する日々でした。今でも「普通なのに」と言われます。その言葉が1番の偏見なのに、と思っています。そんな言葉をかける人は、心のどこかで、まだ時代についていけない人の偏見だと思っています。それぞれ個性があるように、息子の発達障害も個性です。これからも、わかってもらえる時もあれば、そうじゃない時もあると思います。息子の1番の味方に家族でなっていきたいと改めて思いました。
- ・今回、発達障害についての記事がメインの記事で、とても嬉しくてありがたい思いです。悩んでるご家庭の勇氣にも繋がる記事だったと思います。ありがとうございました！
- ・毎回、楽しみに読んでますが、もっと地元ネタがあると、良いです！イベントの写真や地元の有名人や美味しい物の、紹介もあっていいところ取り思う。
- ・長引くコロナ自粛で、なるべく出歩く事を控え、我慢してたんですが、友達を誘って、天草に、伊勢海老を食べに行こうと思います。
- ・発達障害という個性と向き合っている当人の思いをきけてよかった。
- ・以前に比べたら見出し等もカラフルになって色々な事が記載してあるので楽しく読ませてもらってます。
- ・今月の感想ではありませんが、今の広報に変わった時、「あ、担当の人が変わったんだな…」と感じました。人を惹き付ける内容(写真は特に！)で、素敵だなあ～と思いました。←あんまり読んでないのに偉そうでスマセン。なんか、勝手に宇城市、イケてるぞ…(笑)って嬉しく、毎回(チラッと見るだけです)…笑)楽しみです。写真は毎回、素敵です。
- ・テーマや表現が大変良かった。広報誌の概念を変えた斬新なアイデアで、市民の共感を得ていると思う。これからも期待しています。
- ・読ませて頂いて凄く勉強になります。宇城市にずっと住んでても知らない事が沢山あるんですね。人と人の繋がりが伝わってくる、そしてその繋がりが大事だと気づかせてくれる記事で大変素晴らしいと思います。今後も楽しみにしています。
- ・発達障がいについての内容でしたが、子供の発達障がいについても取りあげて欲しいです。わが家の子供も発達障がいがあります。そのせいか、とても育てづらい環境にあります。兄弟同士の喧嘩を止める時やちょっとでも音がするたびに虐待を疑われ、自宅にも来られ、育児も疲れてしまいます。発達障がいの子供を育てるには学校や病院、家庭環境以外にも回り(自治体)の協力と理解も必要なんだと私は感じています。
- ・特集の普通ってなんだろうを読んで、発達障がいについて知らないことばかりだと感じました。今後、発達障がいのある方と接する時は、少し意識して配慮し、みんなが過ごしやすくなれば良いと思います。
- ・いろんな市民や職員の写真が載っていて、こんな人がいるんだなあと知れたので、よかったです。
- ・発達障害のある方が増えてきていることについて、周りの人達の接し方を学ぶ機会になるし、市民の方がもしかして発達障害かもと気づききっかけになると思った。人から言われても受け入れられない人がいると思うので、きっかけづくりとしてはいいと思った。
- ・障がいを抱えた方の特集は、身近に感じる事ができ、体に浸透しました。今後も老老介護や認知症の方の介護など、ご苦労をなさっているご家族の特集とかも是非お願いします。それと、論語は少し飽きてきたとの意見を聞いたことがあります。
- ・レイアウトもよく、全体的に見やすくなっていると思います。今後の特集に期待します。

・ところで、これまで広報誌に登場した人物や写真として使われた人など沢山いると思うが、「あの人は今！」的なことはできないかな～？

表紙を飾った人、読んでみたい論語に出た中学生、こども健診の写真の子など、平成17年に合併して結構いろいろな人が出たと思うので、その時の広報誌を見てもらいながら、宇城市への思いを伝えてもらうのもいいかもね。御一考を…。

・なかなか学ぶ機会がなかった発達障がいについて、基礎知識など知れて良かった。

・自分にとっては普通でも、相手にとっては普通じゃなかったり、そのことで悩んでいた…人に対する接し方、視点を変えた考え方について考えさせられる特集でした。

・特集の「普通ってなんだろう」では、発達障がいについて詳しく教えて頂きとてもためになりました。今回の特集を読まれた方やその周りの方がこれまでの見方を変え、自己の意識改革へ少しでも繋がればいいなと思いました。

・特集「発達障がいを知りともに働く」は身近に発達障がい者の方がいなかったため、どういうふうに生活しているかや働いているのか、今まで知る機会がなかったことを知ることができ、現在の課題や思いが学べて、すごくためになった。また、宇輝人は農家ハンターで頑張っている人の姿を見て、直近であった情熱大陸を見るきっかけにもなったし、頑張ってる人の姿を見ることで自分も頑張ろうという思いを改めて持てたのでよかった。

・発達障害について理解を深めることが出来たように感じます。

今月号で分かりにくかった記事や表現を教えてください

・普通ってなんだろう…は、一般市民に理解して欲しいという気持ちは凄く理解できるのですが、教育関係者や施設関係者の方々は読まれても、実際読んでもらいたい人には中々読んでいただけていないのが現状だと思います。職場にもウキカラ届きますが、職場の9割の市外の方が今月号については全然読んでいません。仕事柄ためになる記事が毎月載るので回覧で見えるのですが、冊子の頭にこの記事が掲載されていて難しく見えてしまったみたいです。

・特集の『普通ってなんだろう』の中で「社会で認められる人材へ」という大きな見出しがありますが、特集の意図に逸れたメッセージが読み取られてしまうかもしれないと感じました。障がいの捉え方は、従来の「医療モデル」から、「社会モデル」への転換の必要が言われています。すなわち、社会に認められるように、障がい当事者が努力するのではなく、社会が、先ず、障がいのある人を、ありのままで受け入れようという事です。インタビューの中で言われている「社会で認められる喜び」と、この見出しは意味が違って捉えられる可能性があると感じました。

・ASDと診断された子どもの母です。今回せっかく発達障がいについて取り上げてあるのに、内容が古すぎて現在の診断名と違うのがとても残念でした。DSM-5では2013年(日本では2014年)にはADHDもアスペルガーも自閉症スペクトラム(ASD)の一部であると括りが変わっています。スペクトラム＝連続体であり、これが当てはまるからASD、アスペルガー…という診断ではありません。

いくつも当てはまる項目があったとしても、本人が困っていなければ診断名はつけないというDr.もいらっしゃるくらいです。(たとえばさかなクン)

発達障がいはこうだから共生しましょう…ではなく、理解しやすい伝え方(視覚化や言い方など)やこだわりのことなど他に伝えて欲しいことはいっぱいありました。

たくさんの方が見るものだからこそ、情報は新しく、前向きにお互いが関われるような内容であって欲しいなと思います。

・P39(最後)の下段に広告で日帰りバスツアーが掲載してあったんですが、文字が小さくてわかりづらい。

・全てにおいて専門用語が多い！

・白文字は見にくいです。(P16.P17)

令和2年8月号から、広聴機能の一環として市民全体に向けてのアンケートを実施しています。
皆様のご意見、ご感想を聞かせてください。

ご感想・ご意見 企画部企画課 広報係 koho@city.uki.kumamoto.jp
問い合わせ 電話 0964-32-1902 ファックス 094-32-2222